



DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418
418, Komei-cho Tsu-shi
TEL 059-226-2766
FAX 059-229-0967

N°85 mai 2009 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

7月12日(日)に総会と「パリ祭」パーティー

記念講演 T.グットマン氏「サルコジ政権下でフランス社会は」 13年ぶりの母国で見てきたこと

三重日仏協会2009年度定期総会と記念講演、および恒例の「パリ祭」パーティーを下記のように開催します。総会の議事以外は一般の参加を歓迎しますので、お誘いあわせてご出席ください。

- ◇ 日時 7月12日(日曜日) 受付開始 pm 2:30
- ◇ 場所 津都ホテル tel 059-228-1111
- ◇ 会費 (パーティー出席者のみ) 6,000円

※ 同封のハガキにて出欠の連絡を6月末日までにお知らせください。

当日の日程

- ① 総会 pm 3:00~3:30
活動報告、会計報告、役員選出、事業計画、予算計画
- ② 記念講演 (公開・無料) pm 3:30~4:45
講師 ティエリー・グットマン氏 (三重大学人文学部准教授:政治学)
- ③ 「パリ祭」パーティー pm 5:00~6:30
楽しい趣向を準備します。ビンゴ、クイズ、福引などなど

<記念講演>

昨年春13年ぶりにフランスに帰国、リヨン大学で1年間研究生生活を過ごされたグットマン先生に、久しぶりの母国の様子、とりわけ現在のフランスの社会・政治状況についてわかりやすくお話しいただきます。とくにフランスの皮肉なメディアがあつたサルコジ大統領をどのように描いているか、映像も使つての講演は楽しみです。

この夏、三重はフ

三重フィル定期「フランス音楽への招待」

＜音楽もフランス語の感覚が大切＞

指揮者・矢崎彦太郎氏に聞く(要旨)



「幻想」交響曲のリハーサル風景
左から4人目が浦口さん
(5月3日・県文大ホール)

三重県のオーケストラでフランス音楽の特集は珍しいのでは？

色彩豊かな近代フランス音楽は楽器編成が大がかりなので、経済的に困難な面もあって地方のアマチュアオケでは取り上げにくいのですが、今回は三重フィルが定期で「幻想」を中心にぜひやりたいという声があって、すべてフランスの曲で挑戦します。もともとフランスの文化と日本の文化は多くの面で影響し合ってきたのですが、ただ音楽の面では、日本は歴史的にドイツやロシア系の音楽が主流になってきた傾向がある。でもきっとフランスものは色彩感覚でも日本人の感性に合うと思うので、三重の皆さんにも今回のプログラムをぜひ聴いてほしい。

三重フィルの手ごたえはどうか？

この前2月に来て、そして今日の練習ですが、その間もお稽古してもらって上達し、少しずつフランス音楽の語り口になれてきたようです。音楽には歌のない器楽曲でもその国の語感というものがある。たとえばシンコペーションでもフランス音楽ではリエゾンする感じ、前だしが必要なんです。そのあたりを取ってつけたような演奏ではなく、こなれたものにしなければならない。本番の1週間前にまたきて2日間みっちりやります。大丈夫、期待していただいて結構です。

《矢崎彦太郎氏 プロフィール》

1947年生まれ。上智大学数学科から東京芸大指揮科に転じ渡辺暁雄氏らに師事。1974～6年フランス・ブザンソンなどの国際指揮者コンクールで上位入賞。その後、コンセールラムルー管などヨーロッパ各地の主要オーケストラの客演、常任指揮者として活躍。現在、フランス国立トゥールーズ室内管弦楽団、および東京シティフィルオーケストラ主席客員指揮者。パリ在住。

第1ヴァイオリン奏者・浦口奈雅子さん(三重日仏協会運営委員)のメッセージ

矢崎先生は、練習に来団なさるたびにパリの香りを運んでくださいます。私の大好きな曲ばかりのプログラム、百年前のパリジェンヌ?になったつもりで楽しく演奏しています。ぜひ聴きにきてください。

「少年老い易く “楽” 成り難し」

針谷 宏弥 (三重中京大学短期大学部特任教授)

1980年9月から翌年8月まで約1年間のパリ・エコール・ノルマル音楽院での研鑽生活から30年ちかくの歳月を経て、それは今や遠い回想の世界になりつつある。だが、たった1年間ではあったが、そこで学んだ音楽やその周辺の諸々の収穫は濃密なもので、今でも自分自身が在り続ける為の大きな糧となっていると感じる。渡仏前に、「30代も半ばになって留学すると深く自己否定を味わいダメになる人も多い…」と言ってくれる先輩もいたが、結果的には、年齢には関係なく学ぶ姿勢を保持することの重要さと、それを身体に刻み込むこと自体を学べたことが何よりの収穫であったと思う。

同年7月から、パリ音楽院と日仏音楽協会共催のグルノーブル夏季音楽大学への参加を契機として渡仏したが、閉講後1ヶ月ほどしてパリへ移動し、師匠のバカンスが終わるのを待って9月からようやくレッスン漬けの生活に入った。それは、言わばピアノ三昧の日常であり、平素の教職の仕事から解放され唯ひたすら音楽に打ち込むことができる生活であるから、ことのほか嬉しく思った。

師匠はレリア・グソー先生で、既に、同年3月にアンリエット・ピュイグ=ロジェ先生からの紹介で、弟子入りの受諾連絡を受けてはいたが、初めて師匠に面会した折には35歳であった私でもさすがに少年のように緊張した。滞仏中に自分がレッスンを受けたい楽曲の一覧表を提示し相談したところ「君がパリにフランス音楽を学びに来たのであればそれは間違いであり、ここは古今の全ての音楽を学ぶ場である」と、優しくも厳しい眼差しで諭された。今となってはそれは極当たり前の考え方なのだ



グソー先生とともに
(同門下の日本人女性と)

が、当時の私には或る意味でカルチャーショックであったと共に、貴重な訓辞として今なお心に響鳴し残るお言葉であった。以後、先生には格別に目を掛けて頂き、コンクール用のプログラムの他、翌81年夏の帰国直前の1ヶ月間には、ご自身のバカンスまで返上し、私が渡仏前に準備していった多くのピアノ曲について懇切丁寧なレッスンして下さったのだった。

今回、久し振りに独奏会を開催するにあたり、そのプログラム構成にはパリ時代にレッスンして頂いた楽曲を中心に据えることとし、この30年間近くを経た時の流れの中で、それらがどのように変化したかを自身で確認したいという願いとともに、永らく温め続けてきた執念とも言える熱い拘りを表現したいと思っている。しかし、弾けども弾けども弾くほどに、益々ピアノの魅力に惹かれる己とその底無しの難しさの前に消え入りそうな己が視えるだけであり、まさに「少年老い易く “楽” 成り難し」の諺が木霊するのみである。

2009/5/17

6/7 三重フィルハーモニー交響楽団第38回定期演奏会

フランス音楽への招待

日時：6月7日(日曜日) 14:00開演 入場料 指定席 1,500円
 場所：三重県文化会館大ホール 自由席 1,000円

プーランク/ バレー組曲「牝鹿」
 ラヴェル/ ラ・ヴァルス
 ベルリオーズ/ 幻想交響曲

指揮：矢崎彦太郎 ゲスト ハープ：篠崎史子 篠崎和子

7/17 針谷宏弥ピアノ独奏会(後援事業)

サロンを彩る愛奏佳曲の花束

日時：7月17日(金曜日) 午後7時開演 前売券 一般 3,000円
 会場：津リージョンプラザお城ホール 学生 2,000円

F.クーラン/ <クラヴサン曲集>より"葦" "神秘のバリケード"
 G.フォーレ/ 舟歌第3番op.41 夜想曲第7番op.74
 M.ラヴェル/ 高雅で感傷的な円舞曲
 宮下和夫/ <ピアノのためのポエム>より "炎よ"
 F.ショパン/ 前奏曲嬰ハ短調op.45
 バラード第4番op.52 スケルツォ第4番op.54

グループ紹介(1)

サンマルコ・ワイン会

三重日仏協会が誇るワインアドバイザー・長田康二さん(1987年第1回全国選手権優勝)が監修するワイン愛好者の集い。1990年ごろから自宅2階で始めた会もだんだんメンバーが増え、10年くらい前からは津市東丸の内にある料理店「サンマルコ」を毎月第1月曜日の夜借り切って、黒田シェフ夫妻の料理とともに各種ワインを楽しんでいます。ワインの集まりというとは何か難しい顔をして高級酒を味わい蘊蓄を競い合うイメージがありますが、ここでは低価格でも美味しく、かつ簡単には入手できないようなヨーロッパのワインを選び、にぎやかに談笑しながら楽しむことをモットーにしているとのこと。したがってメンバーは老若男女、職業もさまざま、外国人の参加も珍しくなく、常連から知人、またその友人と広がり、いま例会では常に15人から30人は参加するといえます。いつも新しい参加者を歓迎。



5月例会の風景